

第3回 深谷市水道事業運営審議会 会議録

1 開催日時及び場所

平成28年4月26日（火） 午後1時30分～午後4時00分
深谷市水道庁舎第一会議室

2 出席者

審議会委員：岩崎会長、小林副会長、斉藤委員、引間委員、武政委員、梅澤委員、高田委員、石塚委員、村岡委員、大渡委員、今井委員、大野委員、田中委員、村尾委員、山崎委員（15名中15名出席）

事務局：中野環境水道部長、田村環境水道部次長兼水道工務課長、蕪塚企業経営課長、神田水道工務課課長補佐、青木企業経営課課長補佐、金澤施設係長、橋本企業経営係長、高橋料金係長、山本主査、小林主任、関根主任、菅沼主事補（12名）

3 審議会次第

1 開 会

2 議 事

- (1) 前回審議事項の確認について
- (2) 深谷市水道事業基本計画（後期整備計画）について
- (3) 水道事業収支計画について
- (4) その他

8 閉 会

4 会議録の確定

委員の署名

梅澤 克江	武政 朔二
-------	-------

確定日時：平成28年5月27日

○議事録

発言者	内容
事務局	<p>1. 開会</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から「第3回 深谷市水道事業運営審議会」を開催させていただきます。本日、司会進行をさせていただきます「企業経営課 青木」と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、このたびの人事異動により新たに本審議会事務局職員となった者の紹介をいたします。</p> <p style="text-align: center;">【 事務局職員紹介 】</p> <p>続きまして、本議会における署名人について取り決めさせていただきます。以前配布させていただきました審議会委員名簿の順に、2名ずつ署名をしていくという形になっておりますので、今回の審議会会議録の署名人は、武政委員と梅澤委員にお願いしたいと存じます。次回までに職員が会議録を作成いたしますので、そちらに署名をお願いいたします。</p> <p>それでは、「次第2 議事」に入りたいと思います。</p> <p>はじめに、配布資料の確認をお願い致します。</p> <p style="text-align: center;">【 配布資料確認 】</p> <p>以上でございます。不足がありましたら、事務局までお申し出ください。</p> <p>それでは、岩崎会長、議長として進行をお願いいたします</p>
議長	<p>みなさんこんにちは。今日は3回目の審議会ということで、委員の皆様にはお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。次第に沿いまして進行をさせていただきますが、審議にあたりましては、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、「議題1 前回審議事項の確認について」でございますが、過去2回の審議会の内容を振り返り、審議事項について再度共通認識を図るものでございます。それでは、事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p style="text-align: center;">【 前回審議事項を確認 】</p> <p style="text-align: center;">【 深谷市水道事業基本計画（後期整備計画）について説明 】</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいまの前回審議事項の確認と後期整備計画についてご説明いただきましたが、委員の皆さま何か質問はございますか。ありましたらよろしくお願ひいたします。</p>
N委員	<p>平成21年に当初計画を立てたということでしたが、その時は今の時点で45億円増となる投資に関しては全く考えていなかったということでしょうか。</p>
議長	<p>では、事務局は回答をお願いします。</p>
事務局	<p>当初の計画を立てた際は、最初に幡羅町浄水場という一番古い浄水場を、岡部浄水場との統廃合を行うことを主な事業と計画しておりました。皿沼浄水場に関しては、その次の事業計画での実施で大丈夫だろうという判断で、当初は計画しておりました。そのため、45億円という投資はせずに、まずは幡羅町浄水場を直そうという位置づけとなりました。</p>
N委員	<p>その時は次回の計画でという判断であったということですね。ただ、皿沼浄水場の改修工事というのは老朽化ですよ。だとすると、私の感覚としては、平成21年の計画時に話にあがっていてよかったのではないかと思うのですが、通常の企業と違うことは分かっていますが、経営判断としては正しかったと考えていますか。</p>
事務局	<p>その時判断した材料としては、幡羅町浄水場が大きいのですが、その後に東日本大震災がございました。その影響で耐震診断をしたところ、皿沼浄水場の方が耐震上、改修が必要だと判明しました。また、平成25年度の落雷により、3時間ほどの断水が発生し、ご迷惑をおかけしてしまいました。電気設備も思った以上に老朽化が進んでいることもわかり、こういった判断になっております。</p>
N委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>

議長	はい。ありがとうございます。他にどなたかございますか。何でも結構ですから、聞いてみたいことがございましたらどうぞ。前回までの審議会での見学の中からでも質疑等ありましたらお願いします。
H委員	きれいに改修して新しくすると、最新になった設備は今後どれくらいもつのでしょうか。
議長	では、事務局の方をお願いします。
事務局	通常ですと、建物は50年。機械設備類は15年から20年は使えるのではないかと考えております。
議長	よろしいですか。
H委員	見学した際に、すごく錆びているものがあって、今度はステンレス製のものにするという話があったので、もっと長持ちすると思っていました。昭和40年にできて、現在まで50年経っているのも、もっと長持ちすると思ったのですが。
事務局	配管類はもう少し長持ちすると思います。機械設備類は15年から20年程度になってしまうと思うのですが。配管類は50年から60年もつとは思いますが。
議長	よろしいでしょうか。
H委員	はい。
議長	他にはございますか。
C委員	耐久性ということで、初回見学をさせていただいた時に、鉄やマンガンを除去する砂のようなものの耐久性が10年、皿沼浄水場を見学した際は5年くらいという話が聞こえたのですが、消耗品としてとらえているのでしょうか。当然消耗品ということになるのでしょうか。もうひとつ、水道メーター検針表が各家庭に来ていると思うのですが、その中に膜を使って除去していると書かれています

	が、膜というのはどういった膜なのでしょうか。
議長	では、事務局お願いします。
事務局	川本浄水場というところがございまして、そこは荒川の河川を水源として使用している浄水場なんですけど、そこでは砂を使った処理ではなく、膜を使って異物の処理をしております。
C委員	その膜はどの程度もつのでしょうか。通すということは単純に考えると何か詰まるということですよ。都度掃除をしているのか、総取り替えをしているのか。その膜は結構高いという話を聞いたことがありますので。
事務局	膜自体はセラミックでできておりまして、それを普通に使えば15年くらいはもちます。毎日逆洗ということで、毎日通常とは逆に水を流して詰まりを防いでいます。また、年に1回くらい薬品を使って洗浄をすることで15年程度使えるようになります。
C委員	その膜は浸透膜ですか。
事務局	浸透膜ではないです。
C委員	ということは水の中を泳いでいる膜ではないということですね。逆浸透ですか。
事務局	逆浸透ではないです。セラミックの中に小さい穴が開いておりまして、そこを通ることで汚れの物質を封じ込めて、膜の外にきれいな水が流れてくるという構造になっております。
C委員	それを逆洗するというのは、どこで行うのでしょうか。
事務局	逆洗は、送ってくる水圧に対して根詰まりが起こると圧力が高くなってきます。そうすると、自動逆洗と言いまして、通常きれいな水が出てくる方から水を送り

	<p>込みまして、汚いものや膜に付着している物質を外に吐き出すようにしています。それでも何年も使っていると、逆洗だけでは取れない汚れもでてきますので薬品等を使って洗浄するというを行っております。</p>
C委員	それは川本浄水場だけですか。
事務局	はい、川本浄水場だけになります。
議長	よろしいでしょうか。他にどなたかございますか。
I委員	先ほどの水道施設の概要の説明の中で、地下水が64%、県水が35%、荒川が1%という割合になっているとありましたが、この割合は県から割り当てられているのか、市の方で決めているのか、また単価はどのようになっているのか教えていただければと思います。
事務局	<p>県水というのは、埼玉県営水道で整備された水になります。旧深谷市で導入したのが平成10年ですが、その前は地下水が100%でした。やはり地下水だけではどうしても安定供給に欠けますので、県の水を使おうということになり導入いたしました。割合については、当初10%程度でありましたが、合併に伴いまして、他の浄水場や配水場の使用分が増えましたので、現状の地下水が64%、県水が35%、荒川が1%という割合になっております。</p>
事務局	<p>続きまして、単価ですが、埼玉県水は深谷市の方で買っております。これが1m³あたり税抜の金額で65円。これは埼玉県下すべて共通の金額となっております。実際に水1m³を作るのにかかる費用といたしましては、平成26年度の決算ベースで143.16円、これが税抜の金額で水1m³を作るのにかかっている費用となります。また、皆さんへ深谷市から売った金額になりますが、こちらの方が若干安くなっておりまして、133.82円で1m³あたりの水を売らせていただいております。</p>
議長	はい、よろしいでしょうか。

C委員	よろしいですか、県水というのはどこから来るのでしょうか。
事務局	県が行田浄水場からでして、利根川の水を水源としております。
J委員	後期の事業計画で大変な見直しを行っていますが、石綿管等はまだ布設替が残っているところがあるのでしょうか。また、布整備計画の予算には布設替の予算は含まれているのでしょうか。
事務局	この事業費の中に、石綿更新管の費用は含まれておりません。現在年間約6億円の予算で目標は年間12kmということで石綿管の更新事業を行っております。
J委員	県からの補助金みたいなものは来ているのでしょうか。
事務局	平成24年度で県からの補助金は終わりましたので、現在は単独で行っております。 一応、平成32年度で終わる予定となっています。
議長	平成32年度で全部終わるのですか。
事務局	石綿管だけになります。ただ他にも次がありますので。鑄鉄管で古いものもありますし、VPという塩ビ管も古いものがございます。
議長	今の事務局の話によりますと、管にもいろいろな種類があるということですね。石綿管とか、鑄鉄管、塩ビ管、他にも種類はあるのでしょうか。3種類だけですか。
事務局	あとはですね、ステンレスのものとポリエチレン管というものがあります。
議長	他にはなにか質問はありますか。

G委員	計画給水人口と給水量のことなのですが、目標年度が平成32年度になると、人口が減っているにも関わらず、1日最大給水量が増えているのは何か根拠があるのでしょうか。
議長	では事務局お願いします。
事務局	実績については、年度の最大の給水量がそのまま掲載されています。計画については、計算値に基づいて最大給水量と平均給水量を出していますので、計算上の数値のため差が生じているということです。あくまでも平成26年度は実際に最大で1日に60,828m ³ の水が出たという実績数字ですが、計画値は目標年度までの人口に対して係数をかけまして1日最大給水量を算出しておりますので、平成26年度の数字よりも大きい形となっております。
G委員	この平成21年度の数値は実績ですか。
事務局	平成21年度は実績値です。 すいません、訂正いたします。前期の計画を作るにあたり、事業認可を取っているのですが、その時に平成18年度までが実績値、平成26年度は実際に出た数量で、平成21年度は計画値を使っております。平成37年度も計画値を使っております。あくまでも、平成21年度に資料を作るにあたって人口推計等を行った時に出した数字を用いているということで、この数字となっております。
G委員	これは平成21年度も分かれば実績値がよかったね。
議長	では、この表についてはこれでご理解いただけたということによろしいですか。
G委員	はい。
議長	では、他に何かございますか。
O委員	県水は1m ³ 65円で買って、私たちに送れる水にするのに143.16円かって、それを133.82円で売っているというのが県水の流れということによ

	<p>ろしいですね。地下水は送れる水にするまでにはどれくらいの費用がかかっているのでしょうか。</p> <p>事務局 県水と地下水を含めて143.16円ということになっております。もしお持ちであれば水道事業年報を見ていただきたいのですが、59ページをお開きいただきたいのですが、「4. 経営分析」という項目がございまして、先ほどお伝えさせていただきました水を作る費用、水売る金額というのは毎年動いております。毎年毎年、水を作るのにかかった費用というのが、経営分析表の下から8行目に給水原価というものがございまして。こちらの右側に、数値の内容といたしまして人件費、支払利息、借金の返済の利息の部分です。それから動力費、電気代です。それから減価償却費、資産の減耗をする部分になります。それから、その他費用を加算した金額、これが分子になります。分母の部分に年間有収水量というものがございまして、これは実際みなさんがお使いになって、水道料金としてお金になった水量で、有収水量と呼んでおります。こちらの年間の有収水量で割ったものを給水原価として、1㎡の水を作るのに必要な金額となっております。ちなみにその1行上が供給原価となっております、こちらが水1㎡あたりを売った時の金額となっております。こちらは分子になるのは、給水収益といいまして、水道料金ですね、実際に売れた金額を分子にします。分母は年間有収水量、実際の水量で割ったものとなっております。ですから、毎年少しずつ数字が動くという形となっております。先ほど紹介させていただいたものは平成26年度、一番最近の決算の数字を申し上げさせていただいております。</p>
○委員	<p>給水原価というのは、1年間終わらないとわからないのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね、1年間終わらないと実際の金額というのは。あとは予測としては当初予算を策定するときに、これくらいだろうという金額は出るのですが、やはり予算ですので、その金額よりは大きな数字になってきます。</p>
○委員	<p>水売る時の金額は予想単価ですか。</p>
事務局	<p>こちらも予想はするのですが、気象状況によるところが大きいと考えられます。暑い年の7月、8月、9月は水を非常に使っていただいております。逆に冬場は</p>

<p>○委員</p>	<p>少なくなりますので、そのあたりで調整されているのではないかと思います。ただ、全体的には下がっていく傾向にあります。</p> <p>節水の家電の影響で売り上げが減っているという話を伺ったことがあるのですが、減るのを予想して最初に単価を高くしているわけではないということですよ。予測して高くしておけば、供給単価が給水原価より低くなるというのは、利益を出そうとしている単価ではないですよ。公共のものなので実質かかった額に近い額で売ろうとしているものですよ。利益を最初から乗っけて売っている訳ではないということですよ。電気は設備に投資された金額がそのまま値段にかかってきていると思うのですが、それとは違う方式であるという理解でよろしいのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際、水道料金を決めるにあたっては、原価計算で本来は決めていくべきなんですが、公営企業法という法律の中で、水道料金を定めるにあたっては多くの利益を取るものではなく、公共の福祉を考えてなるべくバランスを取った形で料金設定をなさうということが法律に定められております。ですので、あまりにも黒字額が大きければ水道料金を下げる自治体も当然ございますし、逆に深谷市のように水道料金を上げさせていただきたいということで、最近のニュースなどでも、料金を上げさせていただきたいという自治体が増えているのも事実です。</p>
<p>○委員</p>	<p>1 m³を供給した単価で、給水原価よりも高いことが望ましいということが数値の内容のところに書いてありますよね。それを見ると、若干違うのかなと思いますけどね。</p>
<p>事務局</p>	<p>もう1つ、平成26年度に大幅に上がった理由の中には、会計制度自体が大きく変わったということと、もう1つは岡部浄水場の施設関係が完成しまして、減価償却費というところに機械関係の減価償却費が入っているからなんです。機械ですとか、電気設備類で岡部浄水場を建設するのに約40億円かかっています。この40億円の減価償却期間というのが、15年になっております。これは固定経費として減価償却費の中に含まれてしましまして、現状、1会計年度だけで2億円ほど減価償却費が増えてしまいました。この急激な伸びがあったために、給水原価と供給単価の逆転現象が起きております。ただ、平成26年度は、逆転は</p>

	<p>しておりますが、赤字であったかというところ、この年度に関しては若干ではありますが、約1,800万円程度の黒字決算になっております。逆転したからと言ってすぐに赤字になるという訳ではないのですが、このままでは平成27年度は厳しいのかなというところがございます。</p>
○委員	<p>赤字になった場合は、どこが補填してくれるのでしょうか。</p>
事務局	<p>赤字の場合はそのまま欠損金という形で累積していきますので、どこかの支出を大幅に減らす、もしくは収入の方で水道料金を上げさせていただいて、黒字化を図って、赤字を帳消しにしていくという形しか方法としてはありません。</p>
○委員	<p>どこも守ってくれないので、ここで細々とでも黒字にしていくしかないということですね。</p>
事務局	<p>そういうことになります。実際、平成25年度の黒字額としては2億円ほどありましたので、減価償却費で黒字の部分が無くなってしまったということになります。</p>
○委員	<p>今後人口や収入が徐々に減っていく中で工事をして、黒字を出していける計画なののでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の岡部浄水場も、今まで幡羅、岡部、普濟寺という浄水場が3つあったのですが、これを電気代等かからないようにする計画で1つにまとめました。次の計画では皿沼浄水場をメインとして、前川原と前小屋という2つの浄水場をできればまとめることで、電気代がかなり削減されるため、そのように計画させていただいております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。今までのところでは概要の説明と、後期整備計画の説明をしていただきましたので、皆さまの方で何かありましたらまだ質問をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">【 質問なし 】</p>

議長	<p>そうしましたら、今説明いただきました、後期の整備計画について採択をさせていただきたいと思います。事務局から提案がありました後期整備計画について、質疑も出尽くしたということで、異議がなければこれでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">【 異議なし 】</p>
議長	<p>ありがとうございます。それでは、後期整備計画については事務局が提案した案で採択ということにさせていただきます。</p> <p>それではここで15分ほど休憩をとらせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">【 15分休憩 】</p>
議長	<p>それでは会議を再開させていただきます。</p> <p>続きまして、「議題3 水道事業収支計画」について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">【 水道事業収支計画について説明 】</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいま、事務局より水道事業収支計画についてご説明いただきましたが、何か質問がございましたらお願いいたします。</p>
N委員	<p>資料2の職員の給与はどこに入っているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>収益的支出の「1. 営業費用」の中の「(1) 経費」の中に含まれております。その中で主なものとして、動力費・修繕費・委託料・受水費をこちらに計上させていただいております。</p>
N委員	<p>その差額が主に人件費ということよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>

N委員	<p>人員ですが、先ほどのような説明で安定した水の供給に必要な人員を確保するという話でしたが、今後の計画も考慮して、今考えられる適正な人員配置は何人くらいを目標にしているのか。今平成27年度で54人職員がいると、資料3の13ページでいただいているのですが、将来的にどれくらいの人員が適切であると考えているのか教えてください。</p>
事務局	<p>13ページの企業会計職員数の推移とありますが、平成28年度が、水道・下水・集排含めて52人おります。この中で集落排水事業については使用料収納、集金等すべて職員が実施しておりました。今年度より民間委託に切り替えましたので平成29年度以降は2名程度減と考えております。そのため50名程度が適正人数になってくるのではないかと考えております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。他にどなたかございますか。 建設改良費、減価償却費などの言葉はどうですか、もう少し詳しく教えてほしいなどありましたらお願いいたします。</p>
C委員	<p>職員数の推計は過去の実績ですよね。こういった数字は他の数字のように平成37年度など先までどの程度になるかは出せないのでしょうか。</p>
事務局	<p>将来的な職員数についてですが、後期整備計画が始まりますと事業数が増加しますので、本来ならば職員数を増やさないといけない部分だと思いますが、このままの人数で、事業をやっていきたいと考えております。 老朽管更新事業につきましても、今は年間12kmやっているのですが、同じくらいやっていきたくて考えています。今深谷市には、1,100kmの配水管がありまして、毎年11キロずつやっても100年かかってしまう、100年経つとまた、更新しなければならぬ。エンドレスで更新しなくてはならぬものがありますので、ここで人数を35人に変更するという予定を出すのは難しいものがありますので、ご理解いただきたいです。なるべく今よりは増やさないようにしていく予定です。</p>
C委員	<p>数字的には下がってきていて努力は分かるのですが、これからどうするのかということが大事だと思います。事務局が先ほどおっしゃった数字がはっきりとで</p>

<p>事務局</p>	<p>はなくても、見通しが立つと事業そのものが増えてきて、そのままできるかは疑問だと思いますが、そういう声がほしかった。</p> <p>ひとつ補足なのですが、平成20年に最初の長期整備計画を立てさせていただきまして、水道事業においても職員が直営で集金・滞納整理などをしておりました。その当時の職員数が、平成20、21年度が34名となっております。平成22年度に2名減となっておりますが、料金関係担当の職員は3名減となっております。岡部浄水場等の改修工事の関係で工事関係の職員を1名増という形にさせていただいて、トータルで2名減という形をとらせていただいております。</p>
<p>L委員</p>	<p>企業債についてですが、支払利息がだいぶかかっているように思うのですが、今報道で低金利時代と言われる中で、今後企業債の借入の利率はどれくらいの見通しなのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>利率の関係ですが、繰り上げ償還をさせていただいた時なのですが、基本的に企業債は借入期間30年となっております。そのうち元金の据え置き期間が頭の方で5年間あり、それから返済という形になっております。平成3年、平成4年頃の金利が非常に高く、そういったものが残っておりました。その時最大で7%を超えておりました。この時点で6%以上のものはすべて繰り上げ償還をさせていただいて、現在はそのような金利での借入はない状況です。現在で1番高い金利で、平成32年までの借入で、5.6%の金利のものが残っています。</p> <p>最近の借入の実績ですが、平成26年度の借入は30年の借入で1.2%の金利となっております。平成27年度に借入を実施したものは0.5%ということになっております。ただ、平成27年度からの借入については、利息をなるべく減らしたいと考えておまして、5年間の据え置きをやめて、1年目から元金を償還する元金均等法で償還させていただきます。若干据え置いた場合に比べると金利分が安く返せるという方法を取らせていただいております。ただ、金利がだいぶ下がってきておりますので、資料3の10ページの表で見ていただいた、紫の部分が利息になります。実際の借入は増えていますが、利息の方は下がっております。今借りている金利では利息部分は下がっていきませんが、ただ元金は増えているというものになりますので、よろしくお願いたします。</p>

議長	ありがとうございました。他に何かございますか。
N委員	借入の利率の見直しですとか、説明にあった動力費の見直しの他に、ここにメスを入れれば費用が掛からないと考えているところがあれば教えていただきたいと思うのですが。減価償却費などは固定的な費用ですので仕方ないですが、何か変動的なところで、まだやれる余地があるというところがあれば、教えてください。
事務局	水道事業は井戸の水を汲むのはただですが、井戸から浄水場へ水を送るのも電気でポンプを回して送ってきまして、また浄水する時も濾過機等をすべて電気で動かしていきまして、最終的に各家庭に送るのもすべて電気です。この電気が固定経費として水道事業をかなり占めております。あとは、県水を買うための受水費ですね。この動力費を下げれば費用を抑えられるのですが、なかなか難しいところがありますので、今回浄水場の統合という形でやらせていただきました。今後とも考えて、花園の自然流下のところでも、夜間のうちに水を上げて、昼間に下ろすといったところで努力していくことが1番かなと思います。人件費もありますが、金額としてはそこまで大きくないので、ご理解いただければと思います。
N委員	資料2の修繕費は2億5千万円で数字が横ばいですが、修繕費は取替投資ではないということですか。取替投資は建設改良費の方に入っているのでしょうか。
事務局	老朽管を更新しますと、老朽管から各家庭に入っていく配管があるのですが、これを給水管と呼んでおります。給水管につきましては、経費は修繕費の方で修繕という形をとらせていただいております。
N委員	修繕費の数字が横並びなのは、取替投資とセットで同じように実施していくからということよろしいですか。
事務局	すでに接続されているものを取り替えるということですので、一度違う管を通して接続して、また新しい本来入れたい管を入れて、またそれに接続し直すというものになりますので。

N委員	通常、修繕費は建物を建てたときはかからなくて、年が経てばかかってくるものなのかなと思ったので、聞かせていただきました。ありがとうございました。
G委員	電気の料金が非常に高いということで、4月から電力自由化になりましたが何社か検討されましたか。
事務局	まだ検討はしておりません。平成22年度くらいに、教育委員会のほうで学校の電力を東京電力から他の新電力へ切り替え、契約の見直しをしたことがあります。教育委員会のほうで契約した業者に話を聞いたことがあるのですが、メリットとして、学校のように夏季の一番需要がある時に学校が休みで、その電力を抑えられないと契約できませんと、深谷に限らずどこの水道事業体もそうですが、1年365日同じような状況で動力費を使っておりますので、契約はできませんと断られた経緯がございます。そのため、それ以降検討はしていませんが、4月から自由化ということですので、再度検討をしたいと考えてはおります。
G委員	先ほど事務局から、夜間の電力を使用して下から上に水を上げるとありました。そうすると、夜間の電力の料金と、昼間の電力の料金はどれくらい違うのでしょうか。
事務局	電気料の形態が、一番高いところを基本料金としていますので、昼間電気をたくさん使うと、その分基本料金が高くなってしまいますので、それを抑えるために、水の使用が少ない夜間に電力を使うということです。配水ポンプもピーク時に水を送るとポンプが3台、4台常に動いていることにはなりますが、夜間であれば2台くらいで済みますので、ピークを抑えて、基本料金を抑えるという仕組みになっております。
G委員	家庭用と、企業のかい使用料のところでは仕組みが違うということですね。わかりました。
議長	他に何かありますか。ではひとつよろしいでしょうか。資料2、3ですが、平成34年に内部保留残高が赤字になってしまうということで、毎年取り崩しながら使っているということですが、これが無くなってしまうと本当にダメで赤字に

<p>事務局</p>	<p>なってしまうということですよ。何も払えなくなってしまう。そのためにこの時点までに、ある程度対策を考えないといけないということが今回の内容なのでしょうか。</p> <p>会長のおっしゃる通りで、前回の審議会の時も料金の見直しは5年スパンで行うということでした。5年ですと、本当は平成25年度に見直しをして26年度から適用でした。その段階の時は、何とか黒字を保っておりましたので、赤字が見えてきた平成27年度まで延ばしてきたというところ。実際、会長がおっしゃる通り平成34年度のところで留保資金が枯渇してしまうということで、こちらが無くならないようにするために、料金の改定をお願いしたいというところ。先ほど説明があったと思いますが、不足する額に対して留保資金を充てます、というものです。その利用についてですが、企業会計は2本立てになっていて、資本的収支の資本的収入は基本的に企業債や国の補助金しかないものになっています。その収入に対して、建設改良費ですとか、企業債の元金の償還金が支出となってきます。平成27年度で見ますと、収入の方が10億4,600万円に対して、支払の方が25億3,400万円ということで、その下に「資本的収入額が資本的支出額に不足する額」ということで、プラスで書いてあり分かりづらいのですが、14億8,700万円不足ということになります。ここで内部留保資金を充てるということになります。その差引をされたものが、翌年度の内部留保資金へ動いていくというものになります。平成26年度からの続きで平成27年度が21億円になっているのでわかりづらいのですが、不足する部分に金額を充てていく形となっております。このままですと平成34年には赤字になってしまいます。結局のところ、先ほど減価償却費のところ、本来、企業であれば減価償却費を内部で積み立てておいて、経年劣化した建物などにリフォームする様な形で充てたりします。最近ですと、アリオの隣にあります、東都医療大学はできてまだ10年ほどですが、去年は周囲に足場を組んできれいに化粧直しをしていました。本来そのように積み立てておいて、必要なときに使えばいいのですが、実質、整備計画のところ、給水原価や供給単価の質問がO委員からありましたが、その金額がほぼ拮抗しているということで大きく黒字にはなりません。その関係で不足金額に内部留保を全部充てなければならず、自転車操業のような形になってしまっています。11億3,900万円ほど減価償却費で出るのですが、そのまま不足分の14億の方へすべて入れ込んでしまっています。さらに足りない3</p>
------------	--

	<p>億円を内部留保資金からあてがうという形で推移しております。また、会計制度が変わっていますのでわかりづらい部分があります。減価償却費11億円というのがあるのですが、これがそのまま、まるまる不足額に使える資金にはなっておりません。すべての減価償却費を足すと、11億4,000万円ほどにはなりますが、すべてを料金収入で作ったものではありません。例えば国庫補助金や国からの補助金、委託されて作ったものに対する負担金、あとは受贈財産というものがあります。これはお客様の方で、深谷市の作った配水管まで足りないという場合、少し伸ばしたりしているのですが、この工事はお客様の負担で作っていただいています。それを寄付といった形でらっております。そこには深谷市の方でお金を料金収入で充てていないので、そういったものには控除をしております。ですので、そういった費用で2億数千万円ありますので、実質9億円ほどを減価償却費として、資金的支出の不足する額に対して充てているのが実情です。例えば平成27年度であれば、14億8,700万円たりないところに対して、減価償却費9億円を足しても5億円くらい足りないところを内部留保資金の方から充てないといけません。また、それ以外にも充てなければならない費用が少しありますので、平成28年度へ持って行ける金額は19億3,500万円という形になります。少しわかりにくいのですが、不足する部分に対して減価償却費を自転車操業的に充ててしまっています。そのため留保資金がもっとあれば、借金等せずに施設や管路の更新ができるのですが、そのような料金体系にしてしまうともうものすごい金額を請求することになってしまいますので、ぎりぎりのところで運営しているという状況です。</p>
議長	<p>ありがとうございました。他に何か質問はございますか。</p>
N委員	<p>過去の数字と計画を見比べていたのですが、とりあえず、平成24年、25年から下がったのは、まずはこの岡部浄水場を造ったから、この減価償却費の負担が大きいのでということが第一でしょうか。</p>
事務局	<p>それとですね、震災の後にだいぶ節水されるようになったというのがあります。いろいろとCM等でも節水を呼び掛けるようなものがありましたので、給水収益が平成22年度にくらべて平成23年度がかなり落ちました。夏が暑いと若干上がることはありますが、あとは減少傾向にあります。</p>

N委員	<p>その2つが大きな理由ということですね。</p> <p>あともう1つ、水道料金の未納額は、どれくらいあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>毎年、不納欠損という形で5年に1度不納欠損処理をしているのですが、全体に対して金額にすると約500万円になります。実際のところ、平成21年度から委託をしまして料金収納をやっていただいているのですが、徴収率の方はほぼ100%に近い、99.5%となっております。0.5くらいが未納となって最終的に不納欠損という処理をするのですが、居所不明や企業の倒産といった場合に債権を放棄しないといけない場合がありますので、年間だいたい500万円くらいが徴収不能という形になっております。</p>
議長	<p>他になにかございますか。</p> <p>水はお金になる水と、お金にならない不明の水があると思うのですが、深谷市の場合にはどれくらいあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>水道事業年報の40ページをお開きいただければと思います。こちらが配水量の内訳となっております。左から2番目に「配水量」というものがあるのですが、こちらが実際にポンプを使って配水したもので、18,346,863^m³となっております。そこから上を見ていただいて、「有効水量」というものがあります。これがお金になるべきものになります。実際にお金になるのはさらに右上でして、「有収水量」というものになります、16,108,546^m³となっております。実際は配水量と有収水量の割合になります。約80%になるかと思います。次の41ページに有収率がございまして、下から10行目になります。平成26年度の場合は87.8%になります。残りの12.2%がお金にならなかったもので、その内訳が40ページの「無収水量」になります。</p>
議長	<p>結構漏水が多いですね。</p>
事務局	<p>メーター不感水量というのは漏水が多いです。真ん中の水道事業用水量というものは工事実施した際に水を排水したりするものと、先ほどありました、幡羅町浄水場を止めた関係で、岡部浄水場から給水させていただきましたので、その時に上柴地区の管路は洗浄を掛けさせていただいております。そのため、そういっ</p>

	<p>た水は排水させていただいております。その他といたしまして、消防用水として火事があった時に使う水はお金を取っていませんので、無収水量となります。</p>
N委員	<p>有収率87, 8%というのは近隣の熊谷や本庄というのは同じくらいなのでしょうか。</p>
事務局	<p>正確には言えないのですが、全国平均は90%を少し超えているくらいだと思います。全国平均よりは少し低くなっております。</p>
H委員	<p>では、管を新しくすれば、漏水等も少なくなるということですか。</p>
事務局	<p>老朽管の更新が順調に進めば少しは有収率も上がると思いますが、最初に部長がおっしゃっていたように、その時はまた別の老朽管がでてきてしまうと思います。</p>
議長	<p>他に事務局の方から説明が漏れているところなどはございますか。説明をしておきたいというところがありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>今回見ていただいております、資料2の「水道事業収支計画（改定なし）」というものは、水道料金を改定しなかった場合の収支計画になっております。単年度の収支、特に平成37年度の収支を見ていただくと、「当年度の純利益又は純損失」というところで赤字になっております。</p> <p>純損失が4億8, 040万円という状況になる見込みです。一会計年度、4月1日から3月31日までの間での料金収入とかかった費用の差額がこれほどまで開いてしまうということになります。事務局のほうから考えますと、できればこの最終的な損失を黒字化させていただきたいというのが本当の話です。そうしますと料金収入ベースで約20億円となっております。ですので、単純計算でこの損失を回復するには約5億円となると、25%ほど料金収入の増加を見込ませていただかないと黒字化できないという状況になっております。こちら、長い期間ずっと25%増加のままいくと考えている訳ではありませんので、次回の時に相談の方をお願いしたいと思っております。</p>

議長	<p>ありがとうございます。平成37年度で4億ということですから、25%アップですね。今年度で約2億2千万円ですか、半分ですね。</p>
事務局	<p>今年度で2億2千万円くらい、ただ5年スパンで料金体系を考えておきまして、目標としては29年度に改定をさせていただいて、そこから5年間を見込んでおります。最終が平成33年度になりまして、料金改定しないと平成33年度の損失が3億2,055万円になっております。それを考えますと、料金収入20億円とするために、事務局としては最初の平成29年は15%増と考えております。こちらの方で5年間実施した後、平成33年以降の収支状況を考慮してその後また改定ということで、平成37年度が4億8,000万円の損失が出ますので、10%を見込ませていただくと最終の平成37年度には黒字になるだろうと考えております。</p>
A委員	<p>経費のところでは動力費は年々減っているのですが、他の修繕費、委託料は減っていないのですが、これは機械が変わるからということですか。</p>
事務局	<p>動力費に関しましては、配水する水量が減っていくと見込んでいます。それに応じてポンプの稼働も減るだろうという予測で動力費は徐々に減らしています。修繕費や委託料については、こういった浄水場などの施設は民間の方に委託しておきまして、施設が収縮されて減るのであれば、委託会社の方の人件費も減って、同じように下がっていくのですが、この段階ではまだ浄配水場がすべて残っておりますので基本的には委託料は変わらないと考えております。それと、N委員からも質問がありましたように、修繕費が一定しているというところですが、建設改良で老朽管の更新をしますと、家庭に入っていく配管、これを給水管と呼んでいるのですが、給水管の方は修繕費の方で見込ませていただいております。毎年、建設改良費の中に6億円くらいずつ老朽管の更新を見込んでいますので、それに伴って修繕の方も同じように発生しますので、一定とさせていただいております。</p>
G委員	<p>新規に家庭に水道を入れるとお金を払うと思いますが、そのお金はどこに入っているのでしょうか。</p>
事務局	<p>G委員から質問がございましたのは、新規の加入金というものでございまして、</p>

	<p>「1. 営業収益」の中に含まれております。約1億円ほどが毎年今のところ新規では加入しております。ただ、人口が減っていくと、このままではいけないのではないかと思います。しかし、若干人口の減と世帯数が逆行しております。深谷市の住民基本台帳の世帯数については伸びていて、人口は減っている、一世帯の人数が減っているという状況です。水道の方も同じような形になっています。</p>
<p>議長</p>	<p>1億円の加入金というとなら何世帯くらいになるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この時は、13mmが325件、20mmが338件の申し込みです。新規の合計の件数が671件になります。口径を増やすというものが87件、トータルで758件水道の加入金の申請が来ています。</p>
<p>議長</p>	<p>よろしいですか。他にご意見ご質問はございませんか。 委員の皆さまにはたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。収支計画については以上とさせていただきます。</p> <p>続きまして、「議題の4 その他」について事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">【 次回審議会日程を5月27日に決定 】 【 第1回、2回分 審議会委員報酬支払日の通知 】</p>
<p>議長</p>	<p>他に事務局から何かございますか。 それでは、以上をもちまして本日の議事を終了させていただきます。 委員のみなさまには長時間にわたりまして、ご協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。本日お配りいたしました資料について、ご不明な点など出てきましたら、ご遠慮なく企業経営課までご連絡いただければと思います。 以上をもちまして、第3回深谷市水道事業運営審議会を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。 以上</p>